

秩父宮雍仁親王殿下について

大正天皇の第二皇子淳宮として御生まれになり、20歳になり御成人と同時に秩父宮を創立されました。宮号は、秩父嶺が明治天皇の崇めていらした帝都所在の武蔵国の名山であり、殿下の御住居の西北に位置し、往古日本武尊が奥羽御平定の後にこの地方を通られた歴史にちなみ選定されました。



若き日の殿下は様々なスポーツを愛好され、「スポーツの宮様」と評されましたが、とりわけ登山とスキー、ボートを好まれ、英国留学中にはマッターホルンに登頂されています。晩年には陶芸もなさいました。

また、戦時下より一貫して戦争拡大政策に批判的で、戦後は御別邸においても御療養生活を送りながら執筆活動をなさいました。その人柄は広く国民から親しまれていました。

勢津子妃殿下について

外交官松平恒雄(旧会津藩主松平容保の四男)長女節子嬢として御生まれになり、大正天皇皇后であった貞明皇后と御名前の表記が同じであったために御成婚を機に勢津子と改名されました。

学習院初等科時代には毎夏、中畑にあった榊山侯爵別邸(現在の市立西中学校)で白洲正子様と楽しく遊ばれたということで幼少時より御殿場に御縁がありました。この地をこよなく愛された妃殿下は殿下が薨去された後も夏期を中心に御別邸で生活されました。

昭和14年5月には(財)結核予防会の総裁に就任されました。殿下が薨去された後もその御経験を踏まえて、結核の撲滅を目指し熱心に活動されました。御殿場市への御別邸遺贈は妃殿下の御遺言によるものです。

秩父宮雍仁親王殿下御事蹟

- 1902(明治35年) 6月25日 大正天皇の第二皇子として青山御所にて御誕生
- 1909(明治42年) 4月12日 学習院初等科御入学
- 1920(大正 9年) 10月 1日 陸軍士官学校御入学
- 1922(大正11年) 6月25日 秩父宮御創立
- 10月25日 陸軍少衛に御任官
- 1925(大正14年) 5月24日 英国御留学に御出発
- 1928(昭和 3年) 9月28日 松平勢津子様と御成婚
- 1929(昭和 4年) 10月10日 明治神宮体育大会総裁に御就任
- 1937(昭和12年) 5月12日 英国皇帝陛下戴冠式に御名代として御参列
- 1941(昭和16年) 9月16日 御殿場御別邸に御移居
- 1945(昭和20年) 5月25日 赤坂表町御殿本館空襲にて全焼
- 1952(昭和27年) 1月20日 鶴沼御別邸に御移居
- 1953(昭和28年) 1月 4日 薨去

※出典・参考文献「秩父宮雍仁親王」「御殿場清話」「銀のボンボンエール」「思い出〜秩父宮妃殿下」「秩父宮と昭和天皇」「秩父宮妃勢津子」

CHICHIBUNOMIYA MEMORIAL PARK

交通案内/利用案内



- 開園時間 9:00~16:30 (入園は16:00まで)
- 6-7-8月 9:00~17:30 (入園は17:00まで)
- ※イベント開催時などに開園時間が延長されることがございます。

- 休園日 毎月 第3月曜日(祝日を除く) 12月29日~1月1日
- ※月曜日に祝日開園した場合はその翌日。

入園料

区分	個人	団体/20名以上	定期入園券★
一般	300円	250円	1,500円
小・中学生	150円	100円	750円

★定期入園券は発行日から起算して1年間有効です。ご本人に限り、入園できる入園券です。

駐車料/1回

普通自動車	200円
バス・マイクロバス/20名未満	2,000円
/20名以上100名未満	1,000円
/100名以上	無料

交通案内

東名御殿場I.C.から ●お車で約3分 ●徒歩約10分

JR御殿場駅から ●富士山口7番線より無料送迎バス運行中
●タクシーで約10分

園内でのお願い

- 所定の場所以外での飲食・喫煙はご遠慮ください。
- 園内への酒類の持ち込みはご遠慮ください。
- 動物を連れての入園はご遠慮ください。
- 自転車・バイクの乗り入れはお断りします。
- ゴミは各自でお持ち帰りください。
- 物品の販売、募金、営業用の写真興行行為には許可が必要です。



秩父宮記念公園

〒412-0026 静岡県御殿場市東田中1507-7
TEL 0550-82-5110 FAX 0550-84-2228
<http://chichibunomiya.jp/>

秩父宮記念公園

寛仁親王殿下 揮毫



<http://chichibunomiya.jp/>

GUIDE MAP ガイドマップ

秩父宮記念公園は、昭和16年9月から約10年間、秩父宮両殿下が実際にお住まいになられていたご別邸を、秩父宮妃勢津子殿下が平成7年8月にお亡くなりになられた際のご遺言により御殿場市に御遺贈いただき、園内を整備し平成15年4月に開園した公園です。敷地面積は約1万8千坪(東京ドームの約1.5倍)、標高約500メートルにある庭園は、両殿下が愛された山野草をはじめ四季折々の花々を楽しむことができます。

1 正門&森のエントランス



故三笠宮寛仁(ともひと)親王殿下がお書きになられた園名板と爽やかなヒノキ林がお客様を歓迎します。5月頃にはシャガの花が開花します。

2 母屋&しだれ桜



享保8年(1723年)に建てられた茅葺の母屋(御殿場市指定文化財)です。樹齢130年余りのしだれ桜は誰をも魅了します。雨落ちには妃殿下が愛された濃い色のスミレが育っています。

3 銅像



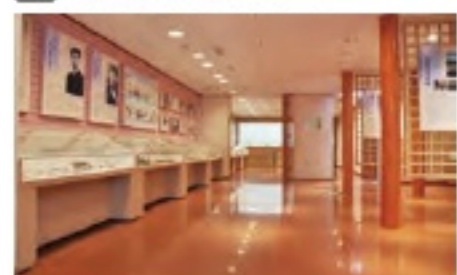
昭和天皇より贈られた登山服姿の秩父宮殿下銅像は富士山に向けて設置されています。朝倉文夫氏(彫刻家)が制作したもので、東京赤坂の御本邸より昭和19年に移設されました。

4 うぐいす亭



秩父宮殿下の和歌より「うぐいす亭」と名付けられた休憩所で、ヒノキの間伐材で建てられています。給茶機もありますので、散策の疲れを癒してくれます。

5 記念館 [展示室]



秩父宮家から御遺贈いただいたゆかりの品々を展示しています。平成4年にできた新館の建物を改装し、現在は展示室となっています。



【記念館・母屋へご入館される方へ】

- 館内へは履物をお脱ぎになってお入りください。
- お履物は玄関に揃え、スリッパに履き替えてお入りください。
- お子様連れのお客様はお子様の手をつないで見学してください。
- 順路に沿ってお入りください。

5 記念館 [リビングルーム]



書斎や応接間、食堂として使用され、親交のあったイギリスから取り寄せた洋家具を配置しています。殿下は英国に留学経験があり、妃殿下は英国でお生まれになりました。

5 記念館 [炉の間]



両殿下がくつろがれた囲炉裏があり、現在でも地元のボランティアの方が茅葺(かやぶき)屋根の保存(害虫駆除等)を目的とした燻蒸(くんじょう)作業を行っています。

5 記念館 [西の間]



秩父宮両殿下並びに高松宮両殿下は、昭和天皇による太平洋戦争終戦(昭和20年8月15日)の玉音放送をこちらの部屋で聴かれ終戦を迎えられました。

6 ロックガーデン



勢津子妃殿下は山野草をことのほか大事にされました。富士山周辺の絶滅危惧の山野草の種をこの地に撒き育てました。溶岩の地熱を利用し栽培された当時の様子を再現しております。

7 三峰窯



富士山・箱根山・愛鷹山の三山にちなんで殿下が御命名になりました。人間国宝加藤土師蒔(はじめ)氏の指導により制作され、両殿下は約1300度の熱に耐えるこの窯で陶芸を楽しまれました。

8 管理棟・休憩所・売店



地場産品を始め品揃え豊富な売店やイベントなどを開催する休憩所、多目的室、会議室などの貸出施設があります。ぜひお立ち寄りください。

